

2013年3月期決算説明会 主なQ&A

- Q 今年度の運輸収入見通しについてどのように考えているのか。
- A 運輸収入全体の基礎トレンドを対前年比+0.6%で見込んでいる。このうち、新幹線収入については、基礎トレンドを+1.5%と見ている。今年度は、景気が回復していく兆しも見えるが、昨年度の基礎トレンド実績をベースとした上で、様々な営業施策を展開することで収入の上積みを図ってまいりたい。
- Q 今後の営業費用の見通しや中長期的なコスト削減に向けた取り組みについてはどうか。
- A 本中期経営計画の期間中、物件費は高水準で推移すると想定している。そのうち修繕費については、事業の継続的な運営に必要な修繕工事がレール交換等の業務波動により増加することに加え、フリーゲージトレイン等の新しい技術開発のための試験費を見込んでいる。中長期的なコスト削減については、検査業務の効率化、検査対象設備の増加抑制、作業の効率化と施工能力向上などにより、構造的にコストを下げる取り組みを進めてまいりたい。
- Q 設備投資効果の考え方についてはどうか。
- A ハードルレートの設定などを行っているが、投資する事業ごとに投資効果を適切に測ることが基本である。当社は、鉄道事業が中心のインフラ企業であるので、保有資産から生まれるリターンやその効率を適切に管理していくことが大切だと考えている。
- Q 今後の不動産分譲の見通しについてどのように考えているのか。
- A 今年度は、もともと多数の分譲を計画していたところに、消費税増税前の駆け込み需要を予想して、来年度に予定していた物件の一部を前倒しさせたこともあり、大幅な増収となっている。今後とも、当社沿線を中心に、分譲事業に取り組んでまいりたい。

以上